

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北海道財務局長
【提出日】	平成24年11月14日
【四半期会計期間】	第59期第2四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）
【会社名】	株式会社ゲオディノス
【英訳名】	GEO DINOS Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 光安 浩二
【本店の所在の場所】	札幌市中央区南3条西1丁目8番地
【電話番号】	011-241-3951
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 吉住 実
【最寄りの連絡場所】	札幌市中央区南3条西1丁目8番地
【電話番号】	011-241-3951
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 吉住 実
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第58期 第2四半期 累計期間	第59期 第2四半期 累計期間	第58期
会計期間	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 4月1日 至平成24年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成24年 3月31日
売上高(千円)	4,140,023	4,084,120	8,295,632
経常利益又は経常損失() (千円)	3,993	47,292	23,407
四半期(当期)純損失(千円)	28,653	69,027	103,822
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金(千円)	948,775	948,775	948,775
発行済株式総数(株)	4,303,500	4,303,500	4,303,500
純資産額(千円)	2,417,331	2,253,210	2,339,760
総資産額(千円)	10,768,090	10,835,631	10,725,583
1株当たり四半期(当期)純損失金額 (円)	6.73	16.21	24.38
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
1株当たり配当額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	22.4	20.7	21.8
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	160,889	190,597	637,074
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	197,683	9,503	700,331
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	463,895	126,293	91,343
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	1,194,757	1,122,137	795,742

回次	第58期 第2四半期 会計期間	第59期 第2四半期 会計期間
会計期間	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 7月1日 至平成24年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額(円)	7.73	3.65

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、「連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移」については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 「持分法を適用した場合の投資利益」は、関連会社がないため記載しておりません。
4. 第58期及び第59期第2四半期累計期間並びに第58期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。
5. 第1四半期会計期間よりポイント使用料及びポイント引当金繰入額について表示方法の変更を行ったため、第58期第2四半期累計期間及び第58期事業年度の「売上高」について組替え後の数値を記載しております。

2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、復興需要等を背景として、緩やかに回復がみられるものの、欧州政府債務危機問題の影響等による金融資本市場の変動や海外景気の下振れ等によって、景気が下押しされるなど、依然として厳しい状況で推移しました。

このような状況のなか、当社は、原点である「ホスピタリティ溢れる喜びと感動の場づくり」の理念のもと、一層の経営の効率化を図り、さらには代表取締役の異動や組織変更などにより、収益力の強化に取り組んでまいりました。

当第2四半期累計期間の売上高は40億84百万円（前年同四半期比1.4%減）、営業利益は38百万円（前年同四半期比48.9%減）、経常損失は47百万円（前年同四半期は経常損失3百万円）、四半期純損失は69百万円（前年同四半期は四半期純損失28百万円）となり、売上高は当初の業績予想（売上高42億30百万円）を下回りましたが、営業利益及び経常利益並びに当期純利益においては、業績予想（営業利益30百万円、経常損失60百万円、四半期純損失80百万円）を若干上回って推移しました。

当第2四半期累計期間における営業実績をセグメント別に示すと次のとおりであります。

なお、第1四半期会計期間よりポイント使用料及びポイント引当金繰入額について表示方法の変更を行っており、組替え後の数値で前年同四半期比較を行っております。

セグメントの名称	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	前年同四半期比(%)
GAME運営部(千円)	1,587,986	8.7
フィットネス運営部(千円)	1,169,812	13.0
ボウリング運営部(千円)	552,624	2.9
カフェ運営部(千円)	300,718	12.4
ディノス施設運営部(千円)	472,978	4.3
(シネマ)(千円)	(366,302)	(3.6)
(その他)(千円)	(106,676)	(6.4)
合計(千円)	4,084,120	1.4

(注)1.上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2.ディノス施設運営部の(その他)は、土地・建物の賃貸収入等の売上であります。

3.ディノス施設運営部のセグメント内訳は、内部管理上採用している区分によっております。

(GAME運営部)

GAME運営部につきましては、ゲオショップ内のゲームコーナーであるリトルパークの積極的な新規出店並びにUFOキャッチャーに代表されるプライズ機の景品を取れやすくすること（原価率重視からペイアウト率重視へ転換）やメダルゲームの貸出枚数を大幅に増加させる（時間消費型レジャーへの意識転換）などの施策が効果を上げ始め、後半回復傾向になりましたが、大震災後の前年4-6月身近なレジャーが比較的堅調だったことの反動で第1四半期が落ち込んだ影響などにより、売上高は15億87百万円（前年同四半期比8.7%減）となりました。

(フィットネス運営部)

フィットネス運営部につきましては、健康意識の高まりにより、利用者及び会員数が増えたこと、加圧トレーニング導入効果など会費外収入が増えたこと、女性専用の「ホットヨガスタジオハーティ（北九州小倉）」（平成23年12月オープン）が収益に寄与したこと、千葉県旭市の老朽化した店舗を「ゲオフィットネス旭店」（平成24年4月）として新築移転オープンした増収効果などにより、売上高は11億69百万円（同13.0%増）となりました。

(ボウリング運営部)

ボウリング運営部につきましては、健康増進レジャーとして、生涯スポーツとしての魅力普及強化により、ボウリング教室等をシニア層向けに開催したり、また3ゲーム目以降1ゲーム100円等の企画を開催しましたが、ロンドンオリンピックの開催や今夏の猛暑などが影響し、入場者数が減少したことにより、売上高は5億52百万円(同2.9%減)となりました。

(カフェ運営部)

カフェ運営部につきましては、毎月20日を「カフェの日」として、サービス価格で提供するメニューや各種割引サービスを設定し、後半回復傾向にありましたが、前事業年度に業界全体の規制強化の影響を受け、それが当第2四半期累計期間においても引き続き回復のテンポが鈍いことなどにより、売上高は3億円(同12.4%減)となりました。

(ディノス施設運営部)

ディノス施設運営部につきましては、「シネマ」において、全スクリーンデジタル化の設備投資効果でODS(ライブ等映画以外の興行)が堅調であったこと、前半ヒット作が少なかったが、後半「バイオハザードV リトリビューション」、札幌劇場にて独占上映した「最強のふたり」が大ヒットしたことなどにより、3億66百万円(同3.6%増)となりました。また、「その他」において、前期1店舗に事務所として他社への賃貸物件を増やしたことにより(平成23年6月)、不動産賃貸収入が増加し、売上高は1億6百万円(同6.4%増)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べ3億26百万円増加し、11億22百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、1億90百万円(前年同四半期は1億60百万円の増加)となりました。これは主に、確定拠出年金移行に伴う未払金の減少額が1億39百万円及び利息の支払額が64百万円ありましたが、非資金費用である減価償却費が4億7百万円あったことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、9百万円(前年同四半期は1億97百万円の減少)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が75百万円ありましたが、有形固定資産の売却による収入が29百万円及び差入保証金の回収による収入が37百万円並びに長期貸付金の回収による収入が11百万円あったことなどによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、1億26百万円(前年同四半期は4億63百万円の増加)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出が6億84百万円、長期末払金の返済による支出が1億86百万円、リース債務の返済による支出が1億41百万円、短期借入金の返済による支出が1億円及び社債の償還による支出が94百万円ありましたが、長期借入れによる収入が7億円及び社債の発行による収入が6億33百万円あったことなどによるものであります。

(3) 財政状態の分析

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期会計期間末の総資産は108億35百万円となり、前事業年度末に比べ1億10百万円増加しました。これは主に、建物等有形固定資産の減少(前期末比1億10百万円減)がありましたが、現金及び預金等流動資産の増加(同2億43百万円増)があったことによるものであります。

負債については、85億82百万円となり、前事業年度末に比べ1億96百万円増加しました。これは主に、短期借入金等流動負債の減少(同82百万円減)がありましたが、社債等固定負債の増加(同2億79百万円増)があったことによるものであります。

純資産については、22億53百万円となり、前事業年度末に比べ86百万円減少しました。これは主に、利益剰余金の減少(同69百万円減)があったことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,000,000
計	14,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,303,500	4,303,500	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	4,303,500	4,303,500	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	-	4,303,500	-	948,775	-	1,128,995

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社ゲオホールディングス	愛知県春日井市如意申町5丁目11-3	3,100	72.03
株式会社北洋銀行	札幌市中央区大通西3丁目7	212	4.94
株式会社セガ	東京都大田区羽田1丁目2-12	132	3.07
ゲオディノス従業員持株会	札幌市中央区南3条西1丁目8	62	1.45
株式会社北星コーポレーション	札幌市中央区南4条西3丁目9	50	1.16
北海道コカ・コーラボトリング株式会社	札幌市清田区清田一条1丁目2-1	40	0.92
中道リース株式会社	札幌市中央区北1条東3丁目3番地	37	0.85
西山一彦	三重県桑名市	31	0.73
セコム損害保険株式会社	東京都千代田区平河町2丁目6-2	20	0.46
オリックス株式会社	東京都港区浜松町2丁目4-1	20	0.46
株式会社ムラオカ食品	札幌市中央区南8条西1丁目13-80	20	0.46
計	-	3,726	86.59

(注) 上記のほか、自己株式が45千株あります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 45,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,258,000	42,580	-
単元未満株式	普通株式 500	-	-
発行済株式総数	4,303,500	-	-
総株主の議決権	-	42,580	-

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社ゲオディノス	札幌市中央区南3条 西1丁目8番地	45,000	-	45,000	1.05
計	-	45,000	-	45,000	1.05

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について瑞輝監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	795,742	1,122,137
売掛金	136,667	126,050
商品及び製品	24,633	28,196
原材料及び貯蔵品	71,796	69,183
その他	216,876	143,734
貸倒引当金	1,110	1,360
流動資産合計	1,244,605	1,487,943
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,935,155	3,829,185
アミューズメント機器(純額)	485,334	434,815
土地	2,699,860	2,699,860
リース資産(純額)	544,969	597,546
その他(純額)	222,011	215,550
有形固定資産合計	7,887,330	7,776,958
無形固定資産		
	29,545	30,356
投資その他の資産		
差入保証金	1,185,177	1,187,534
その他	362,948	323,418
投資その他の資産合計	1,548,126	1,510,953
固定資産合計	9,465,001	9,318,268
繰延資産	15,975	29,419
資産合計	10,725,583	10,835,631
負債の部		
流動負債		
買掛金	148,506	155,831
短期借入金	100,000	-
1年内償還予定の社債	188,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	1,277,308	1,343,239
1年内返済予定の長期未払金	382,203	372,339
未払法人税等	24,818	20,595
賞与引当金	26,213	38,409
ポイント引当金	4,400	6,700
建物解体費用引当金	27,380	-
その他	1,023,810	882,577
流動負債合計	3,202,642	3,119,692
固定負債		
社債	618,000	1,062,000
長期借入金	2,947,968	2,897,323
長期未払金	938,027	776,611
資産除去債務	137,634	139,119
その他	541,551	587,674
固定負債合計	5,183,180	5,462,728
負債合計	8,385,823	8,582,421

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	948,775	948,775
資本剰余金	1,128,995	1,128,995
利益剰余金	253,922	184,894
自己株式	20,987	20,987
株主資本合計	2,310,705	2,241,677
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	24,410	6,226
評価・換算差額等合計	24,410	6,226
新株予約権	4,644	5,307
純資産合計	2,339,760	2,253,210
負債純資産合計	10,725,583	10,835,631

(2) 【四半期損益計算書】
【第 2 四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第 2 四半期累計期間 (自 平成23年 4月 1日 至 平成23年 9月30日)	当第 2 四半期累計期間 (自 平成24年 4月 1日 至 平成24年 9月30日)
売上高	4,140,023	4,084,120
売上原価	883,370	866,173
売上総利益	3,256,652	3,217,947
販売費及び一般管理費		
給料	795,488	801,075
賞与引当金繰入額	29,512	38,409
退職給付費用	10,980	10,940
水道光熱費	331,450	348,074
租税公課	41,525	34,597
地代家賃	631,969	604,186
減価償却費	353,487	398,013
修繕維持費	206,966	193,916
その他	779,952	750,212
販売費及び一般管理費合計	3,181,333	3,179,427
営業利益	75,318	38,520
営業外収益		
受取利息	1,966	1,752
受取配当金	880	1,024
アミューズメント機器売却益	2,190	-
受取保険金	2,104	1,597
その他	7,953	1,670
営業外収益合計	15,095	6,045
営業外費用		
支払利息	65,079	64,597
アミューズメント機器処分損	4,878	7,094
その他	24,449	20,165
営業外費用合計	94,408	91,857
経常損失()	3,993	47,292
特別利益		
固定資産売却益	-	12
投資有価証券売却益	-	4,848
特別利益合計	-	4,860
特別損失		
固定資産除却損	1,883	1,408
特別損失合計	1,883	1,408
税引前四半期純損失()	5,877	43,841
法人税、住民税及び事業税	16,136	16,133
法人税等調整額	6,638	9,053
法人税等合計	22,775	25,186
四半期純損失()	28,653	69,027

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失()	5,877	43,841
減価償却費	363,290	407,065
株式報酬費用	1,415	662
貸倒引当金の増減額(は減少)	429	250
賞与引当金の増減額(は減少)	9,482	12,195
退職給付引当金の増減額(は減少)	3,196	-
確定拠出年金移行に伴う未払金の増減額(は減少)	-	139,524
ポイント引当金の増減額(は減少)	600	2,300
店舗閉鎖損失引当金の増減額(は減少)	2,704	-
受取利息及び受取配当金	2,847	2,776
支払利息	65,079	64,597
有形固定資産除却損	6,721	8,503
有形固定資産売却損益(は益)	2,149	12
投資有価証券売却損益(は益)	-	4,848
売上債権の増減額(は増加)	4,056	10,616
たな卸資産の増減額(は増加)	5,018	950
未収入金の増減額(は増加)	1,218	5,278
その他の資産の増減額(は増加)	27,850	13,184
仕入債務の増減額(は減少)	17,851	7,325
未払消費税等の増減額(は減少)	77,000	21,784
未払金及び未払費用の増減額(は減少)	8,421	20,872
その他の負債の増減額(は減少)	41,348	45,057
小計	241,820	269,512
利息及び配当金の受取額	1,029	1,186
利息の支払額	66,248	64,127
法人税等の支払額	15,711	15,973
営業活動によるキャッシュ・フロー	160,889	190,597
投資活動によるキャッシュ・フロー		
長期貸付金の回収による収入	9,511	11,463
出資金の払込による支出	900	-
投資有価証券の取得による支出	1,260	1,248
投資有価証券の売却による収入	-	10,650
有形固定資産の取得による支出	203,375	75,143
有形固定資産の売却による収入	3,287	29,914
有形固定資産の除却による支出	939	85
無形固定資産の取得による支出	1,357	-
差入保証金の差入による支出	5,768	3,203
差入保証金の回収による収入	3,118	37,156
投資活動によるキャッシュ・フロー	197,683	9,503

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	600,000	-
短期借入金の返済による支出	600,000	100,000
長期借入れによる収入	1,150,000	700,000
長期借入金の返済による支出	630,525	684,714
社債の発行による収入	293,357	633,903
社債の償還による支出	85,000	94,000
長期未払金の返済による支出	167,579	186,902
リース債務の返済による支出	96,350	141,992
配当金の支払額	2	-
その他	3	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	463,895	126,293
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	427,101	326,395
現金及び現金同等物の期首残高	767,655	795,742
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,194,757	1,122,137

【追加情報】

表示方法の変更

従来、ポイント使用料及びポイント引当金繰入額について「販売費及び一般管理費」に計上していましたが、第1四半期会計期間より「売上高」から直接控除して計上する方法に変更しております。

この変更は、ポイント有効期限の延長に伴い、重要性が増加したため、営業活動の成果をより適切に表示するために行ったものであります。

この表示方法の変更を反映させるため、前第2四半期累計期間の四半期財務諸表の組替えを行っております。この結果、前第2四半期累計期間の四半期損益計算書において、「販売費及び一般管理費」の「その他」に表示していた9,318千円は、「売上高」の控除項目として組替えております。

【注記事項】

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	1,194,757千円	1,122,137千円
現金及び現金同等物	1,194,757	1,122,137

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期損益 計算書計上 額(注)2
	GAME 運営部	フィットネ ス運営部	ボウリング 運営部	カフェ 運営部	ディノス 施設運営部	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,738,848	1,035,028	569,040	343,462	453,643	4,140,023	-	4,140,023
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	1,738,848	1,035,028	569,040	343,462	453,643	4,140,023	-	4,140,023
セグメント利益又は 損失()	249,264	39,164	19,072	32,170	35,606	265,920	190,601	75,318

(注)1.セグメント利益又は損失()の調整額 190,601千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益又は損失()は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3.「第4 経理の状況 追加情報」に記載のとおり、従来、ポイント使用料及びポイント引当金繰入額について「販売費及び一般管理費」に計上していましたが、第1四半期会計期間より「売上高」から直接控除して計上する方法に変更しております。当該表示方法の変更を反映させるため、前第2四半期累計期間については、組替えて表示しております。

当第2四半期累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期損益 計算書計上 額(注)2
	GAME 運営部	フィットネ ス運営部	ボウリング 運営部	カフェ 運営部	ディノス 施設運営部	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,587,986	1,169,812	552,624	300,718	472,978	4,084,120	-	4,084,120
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	1,587,986	1,169,812	552,624	300,718	472,978	4,084,120	-	4,084,120
セグメント利益又は 損失()	104,303	140,048	14,385	14,629	10,355	234,240	195,720	38,520

- (注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 195,720千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失()は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額	6円73銭	16円21銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	28,653	69,027
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	28,653	69,027
普通株式の期中平均株式数(株)	4,258,409	4,258,406

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月12日

株式会社ゲオディノス
取締役会 御中

瑞輝監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 大浦 崇志 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 瀬戸口 明慶 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ゲオディノスの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第59期事業年度の第2四半期会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ゲオディノスの平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。